

# 成田市教育委員会会議議事録

平成31年2月成田市教育委員会会議定例会

期 日 平成31年2月22日 開会：午後2時 閉会：午後3時1分

会 場 成田市役所503会議室

## 教育長及び出席委員

教 育 長	関 川 義 雄
委 員 (教育長職務代理者)	小 川 新太郎
委 員	高 木 久美子
委 員	佐 藤 勲

## 出席職員

教育部長	宮 崎 由紀男
教育部参事	神 山 金 男
教育総務課長	清 水 活 次
学校施設課長	篠 塚 正 人
学務課長	高 梨 哲 生
教育指導課長	高 安 輝 司
生涯学習課長	神 崎 良 浩
学校給食センター所長	椿 弘 志
公民館長	谷 平 裕 美
図書館長兼視聴覚サービスセンター所長	田 中 美 季
教育総務課長補佐 (書記)	篠 塚 康 孝

傍聴人：0人

## 1. 教育長開会宣言

## 2. 署名委員の指名 高木久美子委員、佐藤勲委員

## 3. 前回議事録の承認

## 4. 教育長報告

### 主催事業等

○1月29日 平成30年度 社会教育委員・公民館運営審議会委員・図書館協議会委員合同  
視察研修について

3委員会合同の視察研修として、埼玉県富士見市の市立中央図書館に行っていました。富士見市は埼玉県南東部に位置し、県庁所在地のさいたま市と隣接し、県庁までおよそ10キロメートルという場所にあります。中央図書館は1994年に建築されましたが、2017年7月から翌年の2018年3月末にかけて改修工事を行い、同年4月からリニューアルオープンしたものです。リニューアルの大きな特徴は、LED照明、学習専用席の新設、一般書と児童書の間の間仕切り、そして、何といても多目的トイレと、赤ちゃん連れのお母さんのために、ここでは、「赤ちゃんの駅」と呼んでいましたが、授乳室が設けられていたことです。また、この図書館に隣接して、市役所、文化ホール、市体育館などの公共施設が集まっていて、それぞれに広い駐車場があることから、とても利用しやすい環境にある建物でした。2010年には指定管理者制度を導入し、現在は、紀伊国屋が指定管理者として図書館の運営に携わっておられました。本市の図書館本館は建築されてから既に35年を経過し、建物の老朽化が進んでいるのと、バリアフリーに対応していないなど、構造上の課題も多く、富士見市がリニューアルさせた図書館を視察させていただくことで、今後の参考にしたいという思いでおりました。本市では、今後、現在の建物を大規模改修するのか、それとも、センタービル跡地に新たな生涯学習拠点施設を建設する場合、その建物の中に一体化して取り込んでいくのか、いずれにしても先を見据えて、しっかりとした構想を立てて、あくまでも市民が使いやすい施設にしていくことが大切だと思っています。富士見市のように、公共施設が並んで建築されると、本当に使いやすいように感じましたし、駐車場が車であふれることもなく、うらやましく思ったところです。図書館や公民館がいつリニューアルできるか全く見通しが立てられませんが、中途半端なものにしてはいけないという気持ちを持ち続けてほしいと思います。

#### ○1月31日 平成30年度 第2回 成田市学校給食センター運営委員会について

今回は、学校給食センターでこれまで実施してきた食品放射能検査について、今年度末をもって終了することを議題とし、委員の皆様にご意見を伺いました。また、美郷台小学校学校給食共同調理場の進捗状況について、ご報告させていただきました。食品放射能検査については、これまで基準値を超える数値が検出されたことは一度もなく、原発事故から8年が経過することもあり、今年度末をもって検査を中止することといたしました。運営委員の皆様にもご理解をいただき、議案に賛同を得ることができました。食品の安全性については、今後も産地などを確認し、安心して利用できる食材を選ぶように心がけてまいりたいと思います。

#### その他

#### ○1月25日 係長昇任試験（面接）について

職員の昇任に関する人事面接を行いました。この面接では、面接受験者が将来、係長職として勤務していく意思があるか否か、また、そのことが適切か否か。面接官の質問に対する答え、普段の職場での勤務状況によって合否が決まりますが、いつの時代も、若い職員が希望をもって生き生きと働ける職場づくりが大切だと感じます。係長になっても謙虚な姿勢を保ちながら精進してほしいと思います。

#### ○1月26日 成田市書き初め大会について

成田市として初めての試みとなる、書初め大会が開催されました。教育委員会が主催者に名を連ねていましたが、実質上は、成田市体育館、つまり、成田市スポーツ・みどり振興財団が企画から準備、全体の進行まで一手に引き受け、体育協会や書道協会、青少年健全育成協議会等々の協力を得て、実施することができました。特に、元生涯学習部長でありました藤崎氏が中心になり全体を取りまとめてくれました。初めてのことで、何をどうやっていいのか難しい問題もあったことと思いますが、藤崎氏は書道の先生だけあって、準備万端、とても第1回目の大会とは思えないレベルの高い大会になりました。参加者は市内外の小・中・高校生272名。それぞれ1坪程度のシートで確保されたスペースで、黙々と書いていました。270人を超える子どもたちがいるにもかかわらず、誰も一言も話さず、シーンと静まり返った体育館は、何とも言えない緊張した雰囲気にも包まれていました。体育館と言えばスポーツが主体ですが、こうした文化的な行事もできるということを、しっかりアピールできたものと思います。そもそも、この大会を始めようとしたきっかけは、体育館に空調設備が整ったことから、それを記

念しての大会というスタートでしたが、西中学校や成田国際高校の書道部が書道パフォーマンスも披露してくれて、大会を盛り上げ、参加者からも好評を得て素晴らしい大会になりました。

○1月27日 成田市スポーツ推進委員連絡協議会表彰受賞者祝賀会について

今年度は、3名の推進委員の方が市の功績者表彰を受けたということで、これをお祝いした祝賀会でした。私にとっては年に一度のスポーツ推進員さん方と意見を交わす場となっておりますが、皆さん、仕事を持ちながら熱心にスポーツの推進を通じて市民の健康維持に関わってくれています。とてもありがたいことだと思います。市民の健康寿命を少しでも伸ばしていく、それがとても大事なことだと思いますので、これからも、是非、元気に活動を続けていただきたいと思いました。

○1月30日 平成30年度 第2回 成田市成田国際空港総合対策本部及び幹事会合同会議について

本年度第2回目の会議で、「成田空港のさらなる機能強化の進捗状況について」が議題となりました。この中で、B滑走路の北側延伸とC滑走路にかかる用地について、地権者の同意書の取得状況、A滑走路の夜間飛行制限緩和に向けた寝室への内窓設置状況、既存防音工事の充実、A滑走路特別加算金、航空機落下物被害救済支援制度の創設等について説明があり、質疑を行いました。

成田空港は、現在、デルタ航空が成田での発着便数を減便しており、羽田への引っ越し準備を進めているとか、滑走路南側での地域振興策など課題が多く、決して楽観できる状況ではないことなど、小幡副市長からも話を伺いました。国際空港ができたことで潤ってきた成田市が、開港後40年の節目を迎えた今、拡張を続ける羽田空港との共存関係、また、アジアの空港間競争で生き残りをかけた大事な時期に差し掛かっていることを、改めて実感したところです。

○2月1日 平成30年度 印旛地区教育委員会連絡協議会 教育功労表彰式・第4回 定例常任委員会について

今回、印教連の教育功労者表彰を受賞された方は、全部で30名の方々でした。ほとんどが校長先生方ですが、本年度、現職のままお亡くなりになった校長先生や、定年前にご退職された前公津の杜中学校長の静間先生も受賞されました。また、養護教諭が2名、栄養教諭が1名、おられました。皆さん、今年度末で定年を迎えるの方々でした。唯一、公津の杜小学校の主幹教諭、佐藤雅子先生が定年前の受賞となりました。受賞された皆様のこれまでのご功績、ご労

苦に感謝申し上げたいと思います。

表彰式の後、常任委員会を開催し、次年度以降の公開研究会開催校等を確認いたしました。その他、情報交換の中で、私から、今回の野田市の事件を受けて、成田市では全保護者に向けて注意喚起の文書を出すことを伝えましたが、他市ではまだそのような取り組みはされていないようでした。

なお、次年度の印教連総会は4月25日、午後3時30分から市内ホテルで開催することを確認いたしましたので、委員の皆様には、是非ご予約を入れておいていただきたいと思います。

#### ○2月4日 平成30年度 第9回 成田市校長会議について

野田市で父親の虐待により、4年生の娘が亡くなるという悲惨な事件が起きたことから、学校のできることに、しなければならないことを中心にお話しさせていただきました。今回の事件を受け、その責任がどこにあるのかを問うよりも、関係者が、どうすれば良かったのかを真剣に考え、もう二度と同じような事件が起きないように、できることをしっかりやり抜くことが必要だと思い、学校には、連続して欠席する児童生徒がいる場合は、必ず家庭訪問して状況を把握するよう求めました。合わせて、この会議後、私から児童虐待防止を呼び掛ける文書を、市内全ての公立学校児童生徒の保護者あてに送付し、子どもを守る取り組みを依頼したところです。

#### ○2月13日 北総教育事務所人事異動面接（第二次）について

一般教職員の人事異動について、この日の段階で内定している者の異動先等を当該校の校長に告げる面接です。そのため、まだ異動先が決まっていない職員もいて、人事異動が完全に終了したわけではありません。この場に市内全校長が出席して教育事務所の人事担当者から次年度の学校教職員の定数確認と異動対象者の異動先、また、代わって転入してくる職員の氏名、学校名等が告げられました。面接というより、報告を受けている、といった状況です。以前は、成田市役所の会議室で行っていたものを、現在は四街道市にある教育事務所の別館で実施しています。事務所の職員は手間を省けますが、多くの校長が遠くから事務所にやってきます。「呼びつけて異動先を申し渡す」、そんな高慢な姿勢に受け取られなければならないのですが、もっと学校に寄り添った対応が必要ではないかと個人的には思うところです。

なお、教職員の人事異動の詳細については、まだ全員が確定しているわけではありませんので、この後、3月5日の臨時会において、議案として提案させていただきますので、その折にご意見等を伺いたいと思います。

### ○2月13日 社会を明るくする運動作文コンテスト表彰式について

この日の表彰式は、「社会を明るくする運動成田市推進委員会」が主催して行ったもので、今年度実施した「社会を明るくする運動作文コンテスト」で優秀な成績を収めた児童生徒を招き、表彰状等を授与したものです。今年は、応募者の中で、公津の杜小学校の6年生 田代花梨さんが千葉県審査で千葉県知事賞を受賞。全国審査でも優秀賞に選ばれ、全国保護司連盟理事長賞という立派な賞を受賞しました。全国審査では、全国で337,354点の応募作品の中から、各都道府県から推薦された作品のうち、32作品が入賞作品として選ばれたということです。大変立派な賞だと思います。

なお、この日は、田代さん以外に成田市として優秀な作品として認められた5名の児童生徒の表彰も行いました。成田市からは小学生34点、中学生163点の応募があったそうです。作品を応募する件数は市町によって様々で、県内で最も多かったのは印西市で、小中合わせて3,082点、市川市などは応募作品なし。印旛管内でも、かなりばらつきがあったようです。何でも挑戦することは大事なことで、素晴らしい作文を書けたことは本当に立派ですが、社会を明るくする運動の中心が子どもにならないようにしてほしいという思いです。何でも子どもに取り組みせるのではなく、本来は、大人がもっと考え、大人に自覚を促す取り組みが必要なのではないかと思います。大人は、いつも子どもが学ぶ鏡でなければならないはずだ、と思うからです。

### ○2月17日 第31回 成田市青少年交流綱引き大会について

中台体育館で市内の公立小学校全25校から、90チーム、1,000名を超える選手が参加する、恒例の綱引き対大会がありました。優勝したのは公津小のチームで、パワーもチーム力も素晴らしく、他を一步引き離す力があつたように思いました。ただ、今回、トピックは何といっても、大須賀小と桜田小がベスト4に入ったことです。特に、大須賀小は6年生わずか13名の学校です。これまで、大栄地区の学校がベスト8に入ることはあまりなかったと思いますが、それが今回は一気にベスト4に2校というのは、すごいことだと思いました。また、決勝まで進んだ桜田小と公津小は、全学年単学級の学校。こうした小規模校が活躍してくれたことは、他の学校にも良い刺激になったのではないかと思います。また、大会を最後まで見学していて感じたことですが、年々大会が盛り上がるのはいいのですが、今、そのピークになっているのかな、気をつけないと夢中になるあまり、何か大事なことを見失ってしまわないかなと、心配になります。例えば、大会1か月前くらいから、休日は練習試合が毎週のように

行われ、子どもよりも指導者の方の気持ちが高ぶってしまっている状態があるのではないかと  
いうこと。もう一つは、大会ルール。互いの力が拮抗し、膠着状態の時間が続き、呼吸が困難  
な状況になった児童の姿が少し見られたこと。発達段階の子どもの体力や健康を考えたルール  
を適用し、勝利至上主義に走り過ぎないようにすることも大切だと感じました。さらに、今回、  
特別賞ということで表彰を受けた学校が何校かありましたが、その選考基準が参加者に明確に  
示されていないことから、参加した子どもたちに不公平感が生まれぬか、気になりました。

以上、報告とさせていただきます。

#### 《教育長報告に対する意見・質疑》

佐藤委員：青少年交流綱引き大会についてですが、教育長のおっしゃるように、子どもの発達  
段階に配慮し、無理のないルールで実施していただき、盛り上がり長く続けばいい  
など感じました。

また、野田市で痛ましい児童虐待の事件がありました。その中で、教育委員会が  
アンケートのコピーを渡してしまったということがあり、これは許されるものではない  
と思います。ただ、これからも、あのような、モンスターといいますが乱暴な人が  
乗り込んでくるといったことはあると思います。やはり、そのようなときにはどうい  
う対応をしたらよいか、統一した対応ができるよう演習を行うなどして、普段から心  
掛けていただきたいと思います。

小川委員：先月の教育委員会会議では、石巻市の大川小学校について話をしましたが、先日、  
公津地区区長会で浪江町へ研修視察に行きました。浪江町の請戸小学校も海の近く  
にありましたので、東日本大震災で津波に襲われましたが、請戸小学校では、津波警報  
が出た時点で直ぐに、1. 2キロほど離れたところにある高台への避難を開始して、  
全員無事であったということでした。浪江町の担当職員が言っていたが、浪江町  
では、危機管理については徹底して行っていたということで、校長は、マニュアルに  
沿って、子どもたちを直ぐに高台へ避難させたそうです。そのため、請戸小学校では  
一人の犠牲者も出ず、全員の命を守ることができました。ですから、本当に、校長の  
指導力といえますか、危機管理に対する意識が、いかに子どもたちの命を守るかとい  
うことにつながってくるわけです。そういう点からも、校長会あるいは教頭会では、  
校長、教頭の責任というものを徹底して伝えていただきたいと思います。

高木委員：佐藤委員からもお話がありました野田市での事件についてですが、子どもがSOSを出していたにもかかわらず、父親にアンケートを渡すといった子どもを裏切るような行為をしたということに対して、凄く憤りを感じました。本市の教育委員会は、子どもたちの命や人権を守るために、こういった対応をするのか、今日、聞こうと思っていたところ、先程、教育長報告の中で、本市では児童虐待防止を呼び掛ける文書を保護者あてに送付し、子どもを守る取り組みを依頼されていることをお聞きしまして、とてもありがたいことだと思いました。

また、県内の教育委員会では、最近も、先生が児童の口をガムテープで塞ぐといった、先生の人となり問題となるような不祥事が起こっていますが、成田市では、そのようなことが絶対ないように指導していただきたいと思いました。

高梨学務課長：教職員の指導に関してですが、県内で何か問題が起きた時には、直ぐに通知を出すだけではなく、成田市からは教職員の不祥事を出さないという決意で、学務課の管理主事が学校に出向いて不祥事防止の研修を行っております。

議長：本市教育委員会の窓口での対応ですが、個人情報については情報公開条例に基づいて適切に対応しておりますが、窓口にはいろいろな方がお見えになるので、対応には注意が必要となります。

## 5. 議 事

### (1) 議 案

議案第1号から議案第3号については、成田市教育委員会会議規則第20条第1項の規定により、非公開により審議する。

<これより非公開>

議案第1号 「平成30年度3月補正予算要求書（教育費関係予算）の提出について（追加）」

清水教育総務課長：

議案第1号、平成30年度3月補正予算要求書（教育費関係予算）の追加につきまして、成田市議会3月定例会に提出する補正予算案を、教育委員会会議の議決をいただきまして、市長に申し入れるものであります。お手元の資料3ページをご覧ください。

補正の内容は、学務課が所管している「個性を生かす教育推進事業」について、減額補正を行おうとするものであります。前回の教育委員会会議の議案提出の締め切り日までに、財政課との協議が整わなかったことから、今回、追加提案となったものであります。

この事業は、子どもの生きる力を育み、個性の伸長を目指すために一人ひとりの子どもに応じた、きめ細かな指導を行うことをねらいとして、「学校サポート教員」及び「健康推進教員」を、31人以上の学級を多く有する小中学校及び義務教育学校に配置しているものであります。

本年度の予算措置としては、学校サポート教員37名を該当校に配置する予定でありましたが、県全体で講師が不足している影響を受け、本年1月末現在での配置人数は32名にとどまっており、今後、3月までの確保も難しく、このままでは予算の執行残が大幅に生ずる見込みがあることから、教員等の採用に伴う雇用主負担の「共済費」300万円、及び本人への「賃金」1,200万円について、合計で1,500万円を減額補正するものであります。

以上、議案第1号のご説明とさせていただきますが、ご不明な点につきましては、担当課長よりお答えさせていただきます。

#### 《議案第1号に対する質疑》

小川委員：学校サポート教員については、37名を配置する予定のところ、1月末現在の配置人数が32名ということですが、応募者が少なかったのですか。

高梨学務課長：学校サポート教員につきましては、年度当初、6名欠員という状況でスタートいたしました。また、県の講師につきましても慢性的に不足しておりまして、学校現場では、例えば、教員が産前休暇を取るにあたって、県が講師を配置できないということから、年度の途中で、学校サポート教員であった者が、学校サポート教員を退職し、県の講師になったり、自己都合により、学校サポート教員を退職したりすることがございました。一方で、年度途中で新たに採用した学校サポート教員もおり

まして、1月末現在では5名欠員という状況になっております。

小川委員：年度途中で応募があつて新たに採用しても欠員が生じるということですが、やはり、教員の成り手が少なくなっているのでしょうか。

高梨学務課長：小学校の応募状況等を見ますと、倍率が3倍を切るというような状況もあります。以前ですと、講師を何年やってもいいから教員になりたいという者も多かったのですが、近年は、民間の就職率が高くなっていますので、教員試験に合格できなかった者が、講師にならずに民間に就職するというケースもあると思われまゝ。講師につきましては、慢性的に不足している状況となっております。

議長：市内にも、県が配置すべき定数に達していない学校がありまして、県から配置されないまま進んでしまっているという状況があります。

議長：その他、ご質問はございますか。ないようですので、議案第1号「平成30年度3月補正予算要求書（教育費関係予算）の提出について（追加）」を採決いたします。本議案に賛成の委員は挙手を願います。

挙手全員であります。よつて、本案は可決されました。

議案第2号 「学校医及び学校歯科医の委嘱について」

高安教育指導課長：

議案第2号、学校医及び学校歯科医の委嘱につきまして、ご説明いたします。現在の学校医、学校歯科医及び学校薬剤師の任期は、平成30年4月1日から平成32年3月31日までであります。学校医、学校歯科医に欠員等が生じる見込みであることから、学校保健安全法第23条並びに成田市立小学校、中学校及び義務教育学校管理規則第5条及び大栄幼稚園管理規則第3条により委嘱するものです。

なお、成田市医師団、印旛郡市歯科医師会成田地区よりご推薦いただいた方々を基に、委嘱する学校医、学校歯科医の案を作成いたしました。

まず、欠員による委嘱ですが、学校歯科医の日暮俊久 歯科医師から退任のお申し出がありました。現在、成田小学校、成田中学校をご担当いただいておりますが、成田小学校の学校歯科医の後任として、新井孝男 歯科医師にご担当いただき、成田中学校の学校歯科医の後任として、伊東総一郎 歯科医師にご担当いただきたいと考えております。

なお、任期につきましては、前任者の残任期間となりますので、平成31年4月1日から平成32年3月31日までの1年間となります。

次に、児童数の増加による委嘱ですが、学校医、学校歯科医につきましては、各学校の児童生徒数200人に1人を配置しておりますことから、平成31年度の在籍児童数が400人を超える見込みの久住小学校について、学校医、学校歯科医を現在の各2名から各3名とするものです。新任者として、学校医を京増芳則 医師にご担当いただき、学校歯科医を大野康央 歯科医師にご担当いただきたいと考えております。任期は、平成31年4月1日から平成32年3月31日までの1年間となります。

最後に、再任についてですが、根本明久 学校医と牧瀬敏裕 学校医につきましては、学校医でありました大栄診療所の先生がお亡くなりになったことから、急遽、平成30年8月の教育委員会会議においてご承認いただき、平成30年度について学校医をお願いしたものです。委嘱期間が平成31年3月31日をもって満了となりますことから、再任の委嘱をするもので、任期は、平成31年4月1日から平成32年3月31日までの1年間となります。

ご審議のほど、よろしく願いいたします。

議長：ただ今の提案に関し、ご質問等はございますか。特にないようですので、議案第2号「学校医及び学校歯科医の委嘱について」を採決いたします。本議案に賛成の委員は挙手を願います。

挙手全員であります。よって、本案は承認されました。

議案第3号 「平成31年度使用副読本（市費負担分）の採択について」

《審議結果》

可決

<非公開を解く>

## （2）報告事項

報告第1号 「大栄地区小中一貫教育準備委員会の取り組み状況について」

清水教育総務課長：

（仮称）大栄みらい学園の開校に向けましては、平成28年度からは地元代表者18名と地元の小中学校長等8名で組織する「大栄地区小中一貫教育準備委員会」が組織され、平成33年4月の開校に向け、様々な協議が進められているところであります。今回は、ソフト面での主な取り組み状況について私からご報告させていただき、この後、ハード面を学校施設課長からご報告させていただきますので、よろしくお願いいたします。

お手元にお配りしている「委員会だより」をご覧ください。紙面には昨年11月に開催しました準備委員会の会議結果を掲載していますが、まず、1ページの校章では、大栄中学校の美術部に原案を作製していただいたものを、今回、デザイン会社に2パターンの配色案を依頼し、準備委員会で検討していただいた結果、この案で決定したものであります。

次に、2ページから4ページですが、制服選定の検討経過が書かれております。大栄みらい学園では、1年生から9年生まで制服を着用することが準備委員会で決定しており、決定に至るまでには費用の問題など反対意見もありましたが、最終的には、朝に洋服を選ぶ必要がなくなる、冠婚葬祭にも使える、洋服を購入するよりも割安になるなど、長い目で見ればメリットが大きいということから、各小学校での保護者会での説明を経て決定されたものであります。

昨年7月の準備委員会では、制服専門の検討組織「制服検討会」の立ち上げについて了承を得て、その後、数回に及ぶ会議を重ね、12月には制服メーカー4社によるプレゼンテーショ

ン、制服の展示、保護者アンケートを行い、協議の結果（株）明石スクール ユニフォーム カ  
ンパニーに決定いたしました。今後は、保護者から寄せられた意見をもとに、標準服の導入、  
費用の負担軽減などを含め、機能性の高い制服を業者と詰めてまいりたいと考えております。

なお、学校年間行事、生徒指導、PTA組織、スクールバスの運行やルートなどにつきましては、各  
学校の取り組み、下総みどり学園の事例、バス会社の意見も参考にしながら専門部会  
で具体的な協議を詰めているところであり、決定次第、随時お知らせしてまいります。

《報告第1号に対する質疑》

高木委員：制服の胸のところの刺繍は、校章になりますか。

清水教育総務課長：はい。そこには、大栄みらい学園の校章のワッペンが入る予定です。

議 長：今日、はやぶさ2がリュウグウへタッチダウンをしたところですが、惑星をデザイ  
ンした校章であります。

小川委員：校章の背景は白ですか。

清水教育総務課長：色合いを見ながら、これから校旗の背景について決定することになりま  
すが、制服の校章のワッペンの背景については、現在、未定となっています。

小川委員：制服についてですが、小学校1年生から、この制服を着るのですか。

清水教育総務課長：以前、小学生の間は標準服を着て、中学生になったら制服を着るとい  
うことも検討されていましたが、保護者へのアンケートの結果、1年生から9年生までの  
一連の流れの中で、デザインを統一してほしいといったご意見もございましたことか  
ら、今後の制服検討会での協議によりますが、基本的には、1年生から同じデザイン

の制服となる予定でございます。

佐藤委員：校章の字体のデザインについて、細かなところですが、「I」には鉤<sup>かぎ</sup>があつて、「T」には鉤<sup>かぎ</sup>が無いなど一貫性がないので、精査といいますか、もう少し考えた方がよいと思います。

清水教育総務課長：字体につきましては、今後、デザイン会社と最終調整をしてみたいと思います。

議長：制服については、大栄公民館で、一定の期間、一般公開して、いろいろな方に見ていただきまして決められたものであります。家庭の洗濯機で丸洗いすることが可能なウォッシュャブル素材の制服というのは、ありがたいのではないかと思います。

報告第2号 「大栄地区小中一体型校舎建設事業について」

篠塚学校施設課長：

大栄地区小中一体型校舎建設事業につきまして、工事の進捗状況についてご説明させていただきたいと思っております。

お手元の資料をご覧いただきたいと存じます。本事業につきましては、平成29年度から平成34年度までの6年間継続事業とし、大栄中学校敷地内での施設整備を進めているところであります。

1ページ目は写真撮影の位置となります。2ページをご覧ください。上の写真は、昨年1月に開発行為に伴う雨水調整槽設置工事を行っているところであり、奥の方になりますが、クレーンのアームの下で、雨水調整槽を設置しています。また、下の写真につきましては、昨年6月の状況であり、設置した雨水調整槽の上に土を被せた後に、メイングラウンド整備を行っているところでございます。

3ページですが、上の写真が昨年10月の写真であり、メイングラウンドが完成するとともに、体育倉庫の建替えや、下の写真の左端になりますが、屋外トイレの設置をしたところでござ

ございます。下の写真は、本年1月のもので、完成後に生徒がメイングラウンドを使用しているところでございます。

4ページをお開き願います。現在整備中の計画図面でありまして、先程ご説明させていただきましたが、図面で青色のメイングラウンド、緑色の駐車スペース及び青色の進入道路の部分が整備済みであります。現在、赤色の校舎建設場所の造成工事と、市道馬洗鹿股線の道路改良・盛土工事を行っております。

次に、5ページの実施計画図ですが、本年6月から平成33年3月までの校舎等の整備計画であります。今後、入札等の手続きを進め、本年6月市議会定例会において、校舎及び体育館等の契約議案の議決をいただいた後に工事に着手し、2021年の開校を目指してまいります。

以上、簡単ですが、ご説明とさせていただきます。

《報告第2号に対する質疑》

高木委員：このグラウンドですが、真っ平ではなくで、少し傾きをつけていますか。

篠塚学校施設課長：メイングラウンドには陸上競技のトラックもありますので、平らですが、排水勾配はございます。

高木委員：雨が降った時に、雨水が流れていくようになっているということですね。

## 6. 教育長閉会宣言